

平成 30 年度 第 1 回 子ども部会

日時：平成 30 年 6 月 8 日（金） 10：00～12：00

場所：奄美文化センター 第 2 会議室

1、開会挨拶（奄美市）

- ・こどもの支援は難しさがあり、最近では、東京目黒での虐待死のニュースに、心を痛めている方も多いのでは。
- ・メディアは大きなニュースしか取り上げないが、部会や、事業所の連携などで事前に予防されている事も多くある。
- ・事件になる前に、早期発見、早期対応で、関係者が協力し、事件を未然に防げる体制を作っていく事が大切。
- ・皆さんのおかげでこれまで手の届かなかったところにも、支援が広がってきた。（重度児への療育支援事業など）
- ・部会の中で、意見や思いを伝えていただきたい。その発言が大島地区を変えていく事になる。今日より明日、子ども達の幸せにつながるように取り組んでいきましょう。

2、自己紹介

- ・母親の低年齢化、こどもとの関係性の変化を感じていて求められる役割も増えてきている。
- ・発達に関する機関も充実しているので、早期発見、早期対応に取り組んでいきたい。
- ・職員の資質向上も毎年課題となっている。
- ・地域をこれから育てていかなければならない。
- ・家族や、頼る人が少ない家庭も多いので、もっとサポート支援できる人や環境を増やしていきたい。
- ・子どもを中心とした支援体制の構築を。
- ・厚労省のガイドラインも示されていることを参考にしては（保護者、学校、福祉の連携）

3、説明・報告（事務局より：別紙資料に基づき説明及び提案）

- 1）自立支援協議会と及び子ども部会について（※別紙資料に基づく）
- 2）29 年度報告（※別紙資料に基づく）
- 3）30 年度の目標（案）について（※別紙資料に基づく）
- 4）事務局提案（運営委員の選定について）

- ・のぞみ園 ・にこぴあ ・ここ園 ・チャレンジサポート奄美 ・大島養護学校（予定）より各 1 名
- ※以上 5 名のメンバーと事務局で運営予定（のぞみ園、チャレンジサポート奄美は、後日連絡予定）
- ※現場の支援者が生の声を上げていけるような運営委員会、部会運営をお願いしたい。

3、意見交換

1）福祉と教育の連携について

- ・29 年度実施のアンケートや部会での意見から、学校、福祉事業所等の連携についての課題がうかびあがってきた。
- ・学校側の訪問できる時間帯、担当者などが分かりにくく連携が取りにくい状況。
- ・昨年度の部会にてお互いに顔を合わせて話したら、学校、福祉事業所お互いにそれぞれの役割を理解しきれていい状況があった。（部会に来られた先生とは、共有できるところは多くあった）
- ・アンケートや参加された先生達から、学校内での連携も難しく苦慮している状況を伺うことが出来た。
- ・のぞみ園より連携シートの提案（別紙資料「情報連携シート」）
- ・地区ごとに作成してはとの意見に基づいて作成。名瀬地区から実施できないか検討して頂きたい。
- ・学校もいろんな窓口から連絡を受けると混乱してしまう。連携シートを作成し、連絡を一本化することで分かりやすくなっていくのでは。
- ・学校窓口は最初、教頭先生だが、2 回目以降は担任や特別支援コーディネーターの先生と直接やり取り出来るに

なったら連携が取りやすくなる。

- ・学校も移動等あり、担当が変わるので、毎年 4 月当初に改編できたらよいと考えている。

- ・各学校への記入依頼を教育委員会経由でお願いしたいと考えている。

→教育委員会欠席の為、依頼は後日

- ・訪問の際、都合の良い時間や時期なども記入してもらえたら、連携がとりやすい。

→記入様式を具体的に示したほうが、書きやすいのでは。（各学校に確認する用紙は、記入様式を具体化し、提供する。）

- ・日々、連絡して支障のない時間帯がわかっているれば動きやすい。

- ・このシートは福祉側のシートになるのか。学校側がわかるようなシートも作成する必要があるのではないか。

→相談支援事業所と放課後等デイなど事業所同士のつながりがわからないことが混乱を招くのでは。

- ・学校側、福祉側両方のシートを同時に作成し、各学校にも提供できるようになったらよいのではないか。

- ・連携シートがあると学校外の人にはわかりやすいと思うが、学校側は福祉に対して、まだまだ認識が足りないと感じている。（どのような施設やどのような体制があるのかなどの認識も不足している。）

- ・福祉事業所同士の組織図や連携図（事業所の関係性）各施設がどのようなところで、何をするとところなのか一目でわかり、双方向で理解しあえるようなシート作成を。（資料があると分かりやすい。）

- ・学校訪問の際、複数事業所が連携して場合、来られる方々が、どのような関係で、何をしにいらっしゃるのか事前に分からないと身構えてしまう。（事前に状況を分かりやすく伝えて頂くといのでは）

- ・部会に参加された先生は、連携がとりやすくなる。お互いに顔を見て話すのは大切。（そのような機会作りを）

- ・顔を見て話す機会として、それぞれの学校の夕がたの職員会議などで、全職員に向け説明する機会をもたせていただいたらいいのでは。（学校に出向いて職員会議の中で説明すると、全部の先生が聞いてくれる場所になるのでは。）

- ・学校訪問の際に校長、教頭とはお話ができるが、現場の先生へどのようにつながっているのかはわからない。

- ・各事業所が個別に学校に行くことで混乱を招いている。部会を通して、各事業所が連携して、働きかけていけたらよいのでは。

- ・協議会として、保育所、幼稚園、小、中に、福祉システムを理解していただきやすいような資料を作成し、伝えられないか。

- ・幼保小中と事業所担当者などが一堂に会して、説明できる会議が持てないか。

→各地域でまとめておこなえたら。

- ・それぞれの事業所の関係性などがわかるような資料作成を。

- ・校長会などで話すのが先だが、最終的には学校に行き説明できるように取り組んでいきたい。

- ・福祉と教育との連携。教育現場は、事業所の関係性などが理解されていないことが多い。

- ・関係する用語など制度の細かいところから説明できるように資料を準備していく事でわかりやすくなると思う。

- ・学校からの要望で、年間計画なども個別に示してもらえたら受け入れ態勢や、準備がしやすいとのこと。

※学校の状況理解できるようなシートを作成し、教育委員会等を通して、各学校に記入してもらう様に準備する。

※事業所等福祉側の関係の分かるシートも併せて作成し、学校に提供出来る様に取り組んでいく。

→事務局でたたき台を作成

※顔の見える連携を意識し、学校全体に伝えられるような仕組みを検討する。

○大島児童相談所

- ・要保護児童対策協議会について説明

- ・H28年度の改正児童福祉法に基づき支援者研修等も実施している。

- ・協議会運営や個別ケース検討会議、実務者担当会議、代表者会議、年1回全体会も開催している。

・ケースの現状把握、情報収集、情報共有、役割分担などを行っている。

※虐待ケースなど、事業所で気づいた場合は、窓口として市町村もしくは基幹相談支援センターに早めの連絡を。

○部会研修について

・呼びたい人や行きたい研修があったら、早めに希望を出してもらいたい。

・要望 1： 接遇研修をしてもらえたら。→親しさと馴れ馴れしさの違いを。

・接遇を意識する時、その前に権利擁護の意識を持つことが重要である。（こども、障がい者の）

・こどもの人権。具体的な接し方などにも気づけるような研修を。

・島の距離の近さがかえって、偏見を生んでしまっている状況もある。

・自分たちの施設しか見えていない。自らの支援がいろんなことを理解しながらできているのか心配になる。

※障がい児者の権利擁護を意識しつつ、接遇マナー研修が出来ないか、検討。

○地域での部会開催について

※奄美市・笠利・瀬戸内で開催予定。（地域のニーズに応じて内容を検討していく。）

○リレーファイル（こどもから大人まで）の活用を（情報共有のために）

→障害年金申請時にも便利である。（チャレンジより、提供していただく。）

4. その他

①「保育所等訪問支援」について（別紙資料に基づきのぞみ園より）

・今年度より複数の事業所が取り組む事になるので、教育側にも丁寧な説明をしなければならない。

・保育所等訪問支援事業のガイドラインに基づいて作成。

・療育島支援事業との違いが学校として分かりにくい。

・保護者のニーズに合わせたサービスということを学校に理解してもらわないといけない（資料 2 P 参照）

→保護者のニーズに対応する個別給付の事業である。（保護者の思いを代弁する役割もある。）

・教育と福祉の連携についての資料を提供（厚労省、文科省）

・サービス等支援計画、個別支援計画の違いなど福祉側からの説明がまだまだ必要と感じている。

・今後さらに、教育関係の方への説明していきたい。

②「療育等支援事業」について（別紙資料に基づき三環舎より）※県からの委託事業。

・一般相談： のべ年間 600 回程度。グレーゾーン、判定なし、学校（思春期）など

鹿児島大学臨床心理士による検査（適切につなぐ。）

・もぐもぐ外来： 歯科、嚥下指導（鹿大歯学部より）

・発達外来： 県病院との連携

・施設支援： 延べ 150 件。児童デイ、放課後デイなどの専門家を派遣、帯同し、必要に応じて支援していく。

狭い地域で資源が少ないが、活用してほしい。

③事務局から

・部会会議録等情報共有について（別紙資料に基づき説明）

※会議録の HP 掲載には、毎回の部会で確認。必要に応じて更新して。個人情報などが含まれる場合は、プロテクトを検討する。

アンケート結果

1. 本日の子ども部会についてご意見ご感想をお聞かせください。

①説明・報告について

- ・理解できました。
- ・簡単にわかりやすく良かったです。
- ・子ども部会としてのあり方を確認する機会となりました。
- ・子ども部会の目的が分かりやすく、理解できてよかった。
- ・今年度、福祉と教育の連携ということで、サポート体制がさらに充実できるような部会の位置づけが理解できました。
- ・初めての参加で聞くのみでした。
- ・改めていろんなことを理解することが出来て良かった。

②意見交換について

- ・意見の数が意外と少ない。
- ・皆さんからの貴重なお話を聞かせて頂き、これからの事業にとっても役に立ちました。
- ・福祉と教育の連携が密に出来ればありがたいです。
- ・学校側に対して、どんな事業があってどんなことをしてるのかなど、具体的に伝える必要があるなと感じました。
- ・いろんな意見が聞け、そうだよねと思うところも多く、参考になりました。
- ・福祉、教育の立場から現状や今後の課題等について知る機会となった。
- ・教育事務所の方のご意見を聞くことが出来て良かった。
- ・現場の声が聞かれて良かった。
- ・情報交換等が少しできて良かった。回を重ねることにもっと深く意見交換出来たらと思います。
- ・このように顔を合わせることでより情報の内容が深まる気がします。

③その他について

- ・部会の各地域での開催はありがたいです。

2. 子ども部会についてご意見ご感想をお聞かせください。

- ・様々な意見交換がなされ、現場の声に沿った部会運営がなされていく事を応援します。
- ・多くの関係機関が集まっていたことで、今後の連携の第1歩に繋がったと感じる。
- ・分からない部分の話、様々な関係の方のご意見を聞くことができ、参加することができて良かったです。
- ・みなさんの意見を聞かせていただき、行政の役割をしっかりと果たせるようにしていきたいと思います。
- ・はじめての参加でした。1から勉強と思っています。
- ・現状を知る事ができました。
- ・小グループで情報交換等出来る時間があると良いと思いました。
- ・顔合わせが出来てとてもよかった。
- ・毎回部会が開催されるたびに内容も濃く、課題も増えますが、子ども達の為に繋がり、広めたいと思います。

3. 今後開催してほしい研修や話し合いたいこと等がありかしたらお書きください。

- ・児童虐待について（他地域の事例、奄美の支援体制）
- ・虐待、人権擁護についての研修を受けたい。
- ・一人の子どもをとりあげて、日常の様子などこまっていることを題材に支援を考え合うような研修（勉強会）をしたいです。（保育士）
- ・学校との連携については、何回もあった方がいいのかなと思いました。
- ・幼、保、小の連携はありますが、地域全体で教育者が参加でき、共通理解できる場があるといいなと思いました。